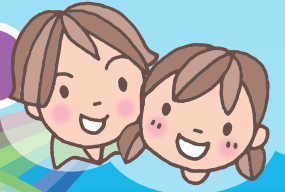


家庭と園で育もう

幼児期から小学校1年生への育ちと学び



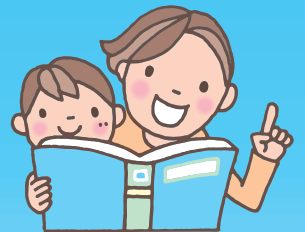
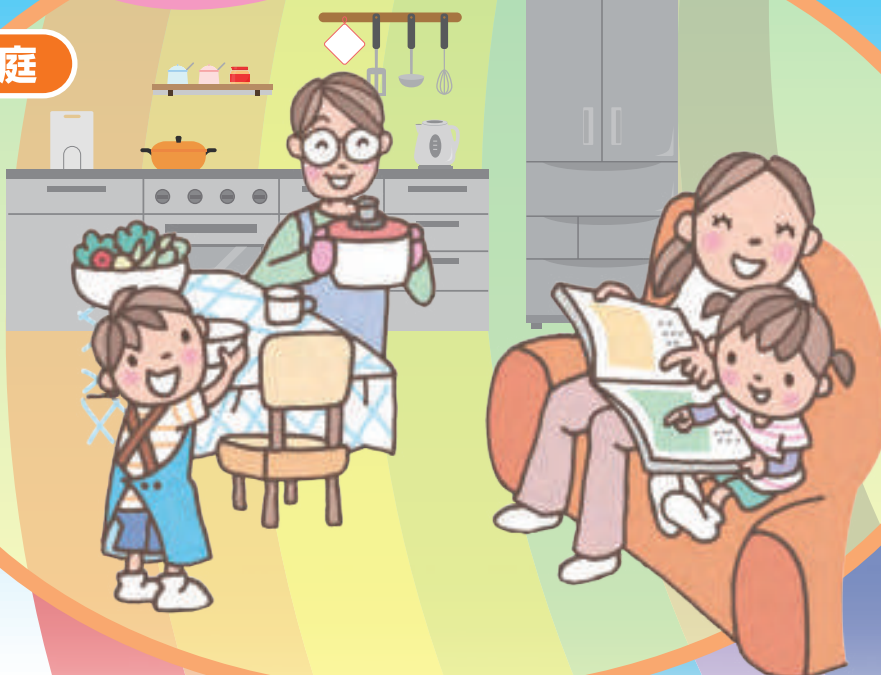
小学校



幼稚園



家庭



目次



幼児期の学びとは	2
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは	5
幼児期での育ちが生かされた小学校の授業でさらに学びが深まります	7
「はじめの100ヵ月」を心動かしてたっぷり遊ぼう！	
京都教育大学 古賀先生から	8
幼稚園3歳児はこんな時期です	9
幼稚園4歳児はこんな時期です	11
幼稚園5歳児はこんな時期です	13
小学校生活 スタート！！	15
京都市立幼稚園の地域の子育て支援センターとしての機能・役割	17
迷ったとき、困ったときには(専門機関の紹介)	18

ご家族のみなさまへ

幼児期の学びは、生涯にわたる人格形成の基盤になると言われています。そして、幼児期から小学校以降へ学びをつなげるためには、子どもの発達を見通して、幼児期にどのように関わり成長を促すのが重要となります。

こうした理念の下、この冊子は、家庭と幼稚園における「遊び」や「生活」に焦点を当て、子どもの豊かな心と学びを育むうえで大切にしたいポイントや具体的なアドバイスなどとともに、幼稚園等での教育と小学校教育との連携や接続（幼保小の架け橋プログラム）についても紹介していますので是非参考にして下さい。

なお、幼児の発達には著しく個人差が見られますので、何より子ども一人一人の今の姿を受け止めていただくことが大切です。その子なりのペースで発達に必要な経験ができるよう、幼稚園とご家庭でともに支え合い、子どもが伸びやかに成長することを願っています。

「学び」の基礎は 幼児期の家庭教育と遊びから育ちます

幼児期の学びとは？

家や幼稚園で何か教えてもらうの？

う〜ん…
字がかけること？

いいえ、
そうではなくて
大切にしたいのは
こちらです！！

足し算や引き算が
できるようになること？

幼児期の学びとは？

- 自分から身の回りのいろいろな環境に関わって、気付いたり、わかったりする。(知識及び技能の基礎)
- 考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。(思考力・判断力・表現力等の基礎)
- 意欲をもち、粘り強く取り組んだり、友達と協力したりする。(学びに向かう力、人間性等)

これらは、幼児期における学びの姿とそのことを通して育まれる「資質・能力」をまとめたものです。特に、幼児期には、「学びに向かう力」とも言える「非認知能力」を育むことが大切であると言われています。

非認知能力とは、好奇心、粘り強さ、協同性、自己主張、自他調整などの能力です。認知能力(読む、書くなどの知識や学力)や人生において必要とされる様々なスキルの獲得にも大きく影響すると言われています。[p8参照]

家庭では

愛情としつけを
基本とした教育



家庭で「学び」の
もとになる体験を

連携・協力

幼稚園では

遊びや生活を通じた教育



家庭ではできない
体験から、学びを豊かに

学び

遊び
心身の
健康

家庭と幼稚園が協力し合って
子どもの「学び」を育てましょう。





家庭では

“しっかり寝て、しっかり食べて、しっかり遊ぶ”ことの心地よさを

この“あたりまえ”のことが豊かに学び、豊かに生きる生活の基本になるのです。

朝は成長に大切なホルモンを
しっかり分泌したり、
陽光が体内時計を合わせたりします。
生活のリズムを整えましょう！

早寝・早起き

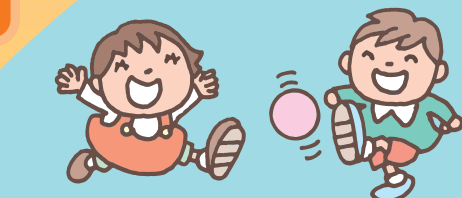
「おはよう」「ただいま」など
家族での挨拶を交しながら、
挨拶は気持ちの良い
コミュニケーションの
入り口であることを
学んでいきます。

挨拶



親子の温かい触れ合いから愛情が伝わり、
安心感や信頼感につながります。
手をつなぐ、抱きしめるなど
ゆったり過ごす時間を持ちましょう！

スキンシップを存分に



子どもは好きな遊びを繰り返し楽しめます。
存分に楽しむ姿を温かく見守りましょう。
家族と一緒に遊ぶ時間や
絵本の読み聞かせも大切に！
また地域に出かけ、自然やいろいろな人、もの、
行事等を見聞きすることで
子どもの世界を広げます。
親子で一緒に楽しみましょう！

遊び

朝ごはんを食べると
頭も体もすっきりと目覚めます。
家族で会話を楽しみながら
バランスの良い食事を採ることで
体にも心にも栄養が行き渡ります。
食事のマナーも大切にしたいですね！

食事

着替えや排便、片付けなど
生活の中で徐々に
自分でできることを
増やしていきましょう！
自分でできたことが
自信となります。

自分のことは自分で

子どもは親の姿を通して学びます。
親との信頼関係のもとで、
なぜそれが必要なのか、
根気よく繰り返し、道徳心の
根と芽を育みましょう。

道徳心



幼稚園では

豊かな遊びを通して豊かな体験を

豊かな遊びってどんな遊び？ 豊かな体験ってどんな体験？ どんな力が育つの？

自然や身近な環境に 関わって遊ぶ

物の不思議さや面白さ、
生命の尊さなどを学びます。
数量、文字などにも興味をもちます。

おもしろいがいっぱい！

友達といっしょに遊ぶ

人と一緒に気持ちよく生活していく
ためのルールを学びます。

友達大好き！



様々な素材、音、色、形などに 触れ、心を動かして遊ぶ

感じたことや考えたことを
絵や音楽、ごっこ遊びなどを通して
表現できるようになります。

イメージが豊かに！



自分から
いろいろなことに
興味や関心をもち、
夢中になって
遊び込んでいくうちに、
「心」・「体」・「頭」が
いきいきと動きます。

戸外で体を 十分動かして遊ぶ

太陽の光をいっぱい浴びて
のびのびと遊ぶことで、
体を動かす気持ちよさを味わい、
運動することへの意欲や
健康な体が育まれます。

心も体も元気に

人と言葉を 交わして遊ぶ

たくさんの言葉を覚え、
自分の気持ちを一所懸命に
伝えようとしています。

お話聞いて！お話聞かせて！



これらの資質・能力は
小学校から高校までの
学校教育で育まれる資質・
能力とつながっている
のです。

このような豊かな遊び・豊かな体験を通して
資質・能力が育まれます。

幼児期に育まれる資質・能力

感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
意欲をもったり、頑張ったり、粘り強く取り組んだりする「学びに向かう力、人間性等」



家族との信頼関係が、人格形成の大切な基盤です。
温かく、ホッとできる家庭がその始まりの場なのです。

「幼児期の終わりまでに育って ほしい姿」が表れます ※P5 ~ P6参照

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識の
芽生え

社会生活
との関わり

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図形、
標識や文字など
への関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは具体的にどのようなものなのでしょうか？



3歳児から5歳児の子どもが自分で選んだり、関わったりする遊びや生活の中の言動には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があふれており、その姿は小学校以降のすべての「学びと成長」の土台となるものです。

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は「一つの遊びに一つしかみられない」ということはありません。ここでは遊んでいる写真の中で顕著にみられ、わかりやすい姿を示しています。



健康な心と体

自分のやりたいことに向かって思いきり心と体を働かせています。



言葉による伝え合い

遊びの中で、思ったことや考えたことを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして言葉での伝え合いの楽しさを感じています。

自立心

身近な環境に自分から関わり、自分の力で考えたり、工夫したりしながら、あきらめずにやり遂げようとしています。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びの中で数えたり、比べたりしたくなり、数や量に親しみ、興味や関心、感覚をもつようになります。



社会生活との関わり

地域の人と触れ合い、様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わろうとするなど自分が地域の一員である喜びを感じます。



道徳性・規範意識の芽生え

きまりを守る必要性に気づき、チームの友達と力いっぱい遊ぶ楽しさを味わいます。



豊かな感性と表現

親しみがあるものや心が動くことなどに出会い、感じたことや思ったことを自分なりに表現することを楽しみます。

協同性

しっぽを取り合う鬼ごっこ。チームの友達と力を合わせたり、たくさんしっぽを取る方法を考えたりして遊び、喜びや悔しさ、楽しさを共有します。



思考力の芽生え

たとえば、水の勢いと物の流れの関係など、あらゆる事象に好奇心を抱き、その意味や仕組みに気づき、自分なりに試したり工夫したりすることで思考力が育ちます。



自然との関わり・生命尊重

身近な動植物に心を動かされる中で生命の不思議さや尊さに気づき、接し方を考え、命あるものを大切にする気持ちを育んでいきます。



保護者の皆様から「知的教育(計算や文字など)を増やしてほしい」という声を聞くことがあります。例えば、小学校の算数で、 $15+8=13$ 、 $15-8=17$ というような誤答が見られます。「足せば増える、引けば減る」という感覚は、幼児期に、自分から数えてみたい、やってみたいなどの思いから遊びや生活の中で数量への興味や関心をもつことでこそ得られるもののなのです。つまり、幼児期の教育で大切なことは具体的な直接体験から数量の感覚をもつこと、それが小学校での正確な加法、減法の知識技能の習得につながっているのです。(P7参照)

小学校の前倒し教育ではなく、遊びや人との関わりの中で、小学校以降の教育を見据えて幼児の資質・能力を確実に育むことを大切にしています。

5歳児と1年生の2年間(架け橋期)の教育を充実させることは、生涯にわたる生活や学びの基盤をつくるために重要だと言われています。幼稚園と小学校の先生同士が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をキーワードに子どもの具体的なエピソードから育ちや学びを語り合うことで連携し、それぞれの教育の充実を図ることができます。京都市では、架け橋期の子どもの育ちを連続したものととらえ、教育や保育の質を向上させるため、公立や民間の垣根を越えて、小学校と各幼稚園・保育園(所)・認定こども園が「幼保小の架け橋プログラム」の効果的な実践※についての研究を推進しています。

※子どもたちの学びの連続性を重視した授業や保育の工夫や、教職員同士の相互理解を目指した合同研修会など





幼児期と小学校の学びをより円滑につなげるため、こんなふうに取り組んでいます。

例えば、数量への関心・感覚から算数科の授業へ

収穫を喜び、ジャガイモの数を知りたいという思いから数え始めます。
(自然との関わり・生命尊重、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)



ジャガイモの数をどのように数えていくのか、自分たちで思いや考えを出し合い、友達と協力して進めようとしています。(言葉による伝え合い、思考力の芽生え、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え)

教師の働きかけや学びの環境づくり

- 自分たちで育てたジャガイモ。収穫を喜び、たくさんのジャガイモを目にして、いくつあるのかを数えたいという思いを大切に、誰かに促されるのではなく、子どもから数え始めるのを見守ります。
- ジャガイモの数を声に出して確かめながら、何度も繰り返し、友達と一緒に協力して数えられるように環境を整えます。

小学校では

どのようにすればうまく比べたり、数えたりできるのかということを友達との対話から考え、気付きます。(言葉による伝え合い、自立心、協同性、思考力の芽生え)



「何番目」という数の学習では場面と結び付けて考えるために、言葉や図、具体物を用いて表します。(思考力の芽生え、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)

教師の働きかけや学びの環境づくり

- 幼児期に培った数への興味や関心が生かされるよう、具体的なものを提示し、視覚的にわかったり、気付いたりできるようにします。
- 課題を友達と共有し、一人一人の気付きや考えを伝え合い、自分の力を発揮できる場面を設定するなどします。

学びをつなげるための幼児期の教育と小学校教育の相互理解の取組



子ども同士の交流



保育・授業の相互参観



教員同士の合同研修会

さらに、幼児理解や児童理解を深め、互いの教育に生かすために、5歳児と1年生の交流活動や小学校と幼稚園の先生たちの授業や保育の参観、合同研修会を実施しています。
また、幼保小接続の窓口担当者を決めて、計画的に連携したり連絡会をしたりするなどの工夫もしています。



「はじめの100カ月」を心動かしてたっぷり遊ぼう！ ー幼児期の教育と非認知能力の育ちー



京都教育大学 幼児教育科 教授
古賀 松香

「幼児期の教育」と聞いて、みなさんはどのようなことをイメージされるでしょうか。ひらがなの書き方を教えること？簡単な計算ができるようにすること？それとも、「ごめんなさい」が言えるようになること？お友達と泣いたり笑ったりしながらたくさん遊ぶこと？幼児期に育てたい力やその育て方については、さまざまなイメージがありそうです。

実はこれまで、幼児期の子どもどのような能力や性格特性がその後の人生を豊かにするのか、また、幼児期の教育がその後の子どもの成長発達にどのように影響しているのか、ということについて、さまざまな研究が行われてきました。そのなかで、**非認知能力を高めることは、その後の人生により影響をもたらす**ことがわかってきて、関心が寄せられています。

非認知能力と一言で言っても、ある一つの能力というのではなく、多様な要素が含まれています。自分の気持ちをコントロールすることや、目標に向かって粘り強く取り組むこと、身の回りのことに好奇心をもつこと、身近な人の気持ちをわかろうとすること等が、代表的なものとして挙げられます。こういったことは、幼児期の子どもたちの生活の中にあふれています。たとえば、おやつ時間に自分の好きなお菓子が出てきても、「いただきます」を言うまで待ったり、隣の子どものお菓子を取らずに分けたりすることができるためには、自分の気持ちをコントロールすることや、隣の子も食べたいかもしれないと理解しようとする、といったことが関わっています。また、なわとびやコマができるようになるには、粘り強くやり続けることが大切になります。たとえばなわとびができる友達の様子を見て、自分も跳べるようになりたいとやってみるけれど、縄に引っかかるのは痛い、いやだ、怖いという気持ちと葛藤することがあります。それでもやっぱり跳べるようになりたいと思い直して、自分なりの目標をもつと、何度ひっかかってもうけずに自分で縄を回して跳ぼうとする姿が見られるようになります。幼児期の子どもは、そういった身の回りで起こるさまざまなことに自ら心を動かしながら関わっていきます。特に園生活においては、自分以外にも同じようなことに興味をもつ子どもがいることであこがれをもったり、一緒にある目標やイメージをもって遊ぶことで楽しさが盛り上がりたりする一方、同じことに興味をもつからこそ時に思いがぶつかり、思うようにならないことも経験します。そういった**自分が直接関係する身の回りのことに心揺さぶられる幼児期の生活の中に、非認知能力が育まれたい発揮されたいする機会が豊富にある**と考えられるのです。

では、どのような幼児期の教育が子どもの成長発達にとって望ましいのでしょうか。これについても研究の積み重ねの中で、**遊びが重要である**ということがわかっています。遊びというのは、子どもが自ら「やりたい！」と心を動かしていくもので、誰かにさせられるものは遊びではなくなってしまいます。また、いわゆるスマホゲームのようなものは、幼児期の教育としての遊びとは考えられていません。**幼児期の教育としての遊びとは、主に、直接、子ども自らが身近な人や物、ものごとに触れ、関わっていくこと**を指します。たとえば、雨の後の水たまりを見つけて、泥水の表面をそとなでるように触るといった、名前のない遊びもたくさんあります。子どもは身近な世界を楽しむ天才で、あらゆることで遊びます。大人はつい子どもの〇〇力を育もうとして、大人の考える「〇〇遊び」をさせようとしてしまいます。しかし、大人の「させたい」思いが強いと、子どもは自ら「やりたい！」と心を動かして遊ぶのではなく、これをやったらいいのかな、と大人の顔を見て動くようになります。それはもはや子どもにとって遊びではありません。大人の指示を受けて言われたように動くことに慣れてしまうと、自ら関心をもって関わろうとする心が育たないことが心配されます。**幼児期の遊びは、子どもが身近なものと「おもしろそう！」と心を動かして関わるからこそ、いやおうなくさまざまなことを感じ、考えることが引き起こされる**のです。小学校就学前の頃には、たとえばみんなで育てた野菜でピザパーティーを開きたいと思い立ち、**友達と目的を共有し、必要なことを試行錯誤して考え、相談し、協力するようにもなります**。そこには、野菜やピザ、パーティー、レストランの仕組み等に好奇心をもつこと、より本物らしくしたいという**目標をもって取り組むこと**、友達と意見が食い違っても、お互いに考えを知ろうと**共感性をもって関わり合うこと**等、非認知能力がたくさん含まれています。さらには、お客さんの人数を数えたり、お店のメニューをそれらしく書いたりして、**自ら遊びを楽しむ中で、認知能力も育まれていくのです**。

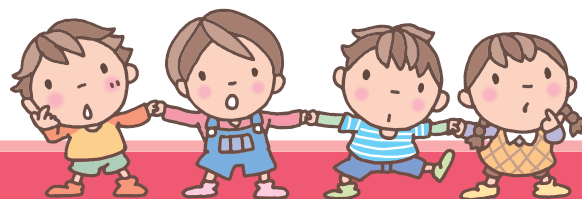
教育基本法第十一条には、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と明記されています。人生にとって重要な時期をたっぷりとに遊んで暮らす。こんなに魅力的な教育はないと思いませんか？ **ぜひ子どもが「やりたい！」と目を輝かせる遊びを一緒に楽しんで、幼児期を過ごしてみてください。**

京都市「非認知能力」を育む子育て講座



古賀 松香先生の講演動画はこちらから →



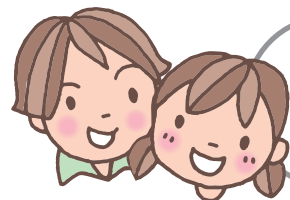
幼稚園 3歳児
こんな時期です

「育ち」の特徴

- 月齢や生活経験による個人差が大きい時期です。
- 「自分が一番」「自分だけのおもちゃ」「自分を見て」と何でも自分が主役。
- 周りの人の口まねをしながら言葉の使い方や言い回しを覚え、言葉の数を増やしていきます。
- 生活習慣も遊びとして楽しみながら大人と一緒にする中で身に付けていきます。
- 目新しいものが大好きで、自分で何でもやってみようとしています。
- ブランコや滑り台、段差の跳び下りなどが少しでもできると嬉しくて何度も繰り返します。やってみることで足腰や指先の力の発達が促される時期です。

幼稚園での「生活」や「遊び」の姿

- 社会生活への第一歩である幼稚園の中で、さまざまな刺激やいろいろな環境に触れ、どんどん自分の世界を広げていきます。
- 自分の思いをうまく言葉で表せません。教師が思いを汲み取ることが必要です。
- 教師と一緒に身の回りのことをし、一つ一つ「できた!」と実感することで、自分のことは自分でしようという気持ちをもつようになります。
- 一人遊びを楽しみます。
教師との温かいふれあいの中で、安定して幼稚園生活を楽しめるようになっていきます。
- 泥んこ遊びや水遊びなど、全身を使って遊びます。

ほっとタイム
3歳児コーナー

こいのぼりを揚げたのですが、風が吹かず、こいがなかなか泳ぎません。
子どもたちはこいのぼりの真下から「フーフー」と息をふきかけました。すると…(ちょうど風が吹いて) こいのぼりが泳ぎ始めました。「やったー!」と大喜びの子どもたちでした。

ワンポイント
アドバイス

幼稚園

3歳児 家庭生活
こんな内容・方法で

▶よい生活習慣の基礎づくりを

- 早寝早起き朝ごはん
- 家族がすすんで挨拶を
- 衣服の着脱は自分でしようとする気持ちを大切に



持ち物の整理

帽子やカバンを置いておく場所を決めましょう。
決まった場所に置くことで身支度や後始末への意識が芽ばえます。



片付け

親子で一緒に片付けをしましょう。
片付いたら、その気持ちよさに気付けるような言葉かけをしましょう。



遊び

- 「どろどろぐちゃぐちゃ」が大好き。服や手足などが汚れてもよい環境を工夫しましょう。
- 年長者の動きを観察し、その様子をしっかりと自分の中に溜め込んでいる3歳児。近所のお兄ちゃん、お姉ちゃんに関わる機会も学びの機会として大切です。



食事

- スプーンがきちんと持てたら、いよいよお箸にも挑戦しましょう。
- 家族そろって、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶をしましょう。



絵本

- 想像の広がる絵や、繰り返しのおもしろさを楽しめる絵本を選びましょう。
- 膝の上に乗せてスキンシップを楽しみながら読みましょう。



ことば

- 覚えた言葉を使ってみたい時です。憎まれ口もおおらかに受け止めましょう。
- お家の人の優しい声、言葉かけが豊かな言葉を育てます。



歌・音楽

- 歌のある生活を楽しみましょう。家族に歌ってもらった童謡やわらべ歌、子守唄は生涯のたからもの。美しい歌詞やメロディー、温もりのある歌声が豊かな感性を育てます。

安全

好奇心旺盛な3歳児。好きに遊んでいるからと放っておくのではなく、保護者として目を離さず、何をしているかをしっかりと見守るようにしましょう。

家庭生活の
つぼ!

3か条



その① 3歳児の世界を大切に ～「おもしろいね」と共感し一緒に楽しもう～

大人の概念や発想の枠にはまらない3歳児。それは何にでも興味をもって自分の世界を楽しんでいるからなのです。

その② 言葉にあらわせない思いを大切に ～何か理由があるはずです～

かんだり、たたいたりすることもあります「もっとこうしたい」「これが使いたい」などの思いを知り、受け止めるとともに、大人が代弁することが必要です。

その③ やろうとする気持ちを大切に ～根気よくゆっくり待とう～

時間がかかっても、結果がともなわなくても、「自分でできた」という思いがもてるようにしましょう。

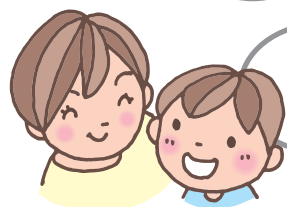
幼稚園 4歳児
こんな時期です

「育ち」の特徴

- 友達と遊ぶ楽しさが感じられるようになる一方、けんかも増えてきます。
- 「お箸を正しく使える」「大便の始末ができる」「ボタンをとめる」など身の回りのことがほぼできるようになってきます。
- 知りたがり屋の試したがり屋です。いろいろなことに興味を示します。
- イメージが豊かになります。
- 言葉をうんと吸収し、使いたくなります。話すことを楽しむようになります。
- 活発さが増してきます。体の動きをコントロールする力や、バランス感覚が育ち、走る・跳ぶ・スキップなどの運動ができるようになります。

幼稚園での「生活」や「遊び」の姿

- 身の回りのことが自分でできるようになったことが嬉しくて、一人でやってみようとしています。
- 身近な生き物や植物に興味をもち、自分から関わろうとします。
- 友達と役割を分担してごっこ遊びも楽しめます。
- 縄やボール、ジャングルジムや滑り台などで活発に遊んだり、友達と一緒に鬼ごっこなどをしたりすることが楽しくなってきます。
- 時にはけんかをしながらも友達と互いに思いを出し合って遊ぶ中で、言葉でのコミュニケーション力が身に付いていきます。

ほっとタイム
4歳児コーナー

飼育ゲージのうさぎがトイレの場所に座っていました。その様子をじーっと見ていた〇ちゃん。「ウンチするのに“んーっ”って言ってるんじゃない？」その言葉を聞いた◎ちゃん「“んーっ”で聞こえた！」

ワンポイント
アドバイス

幼稚園

4歳児 家庭生活
こんな内容・方法で

▶よい生活習慣の基礎づくりを

- 早寝早起き朝ごはん
- 衣服の着脱は自分でできるように
- 大便の始末が自分でできているか確かめて

持ち物の整理



家に帰ったら！

幼稚園で使ったタオルや弁当箱などを洗濯機や台所まで運ぶ習慣をつけましょう。

片付け



片付けやすい環境を！

種類別に整理できるように片付ける場所に目印をつけるなどの工夫をしましょう。



- 自由にかいたりつくったりすることも大好きです。はさみやのり、紙、空き箱などの用具や材料がいつでも使えるようにしましょう。
- 運動機能が発達する時期です。公園の遊具で十分遊び込んだり、思いきり走ったりして全身を使う遊びを経験させましょう。
- 話の筋や展開がわかります。昔話や創作話もいっぱい読み聞かせましょう。
- お風呂やかくれんぼで数を数えるなど、遊びの中で数に触れる時間を一緒に楽しみましょう。
- トランプ、カルタなどのゲームを家族で楽しみましょう。
- 「お茶！」「ごはん！」など一語文で用の足りる生活になっていませんか。主語、目的語、述語を使ってきちんと伝える習慣をつけましょう。
- 子どもに聞いたり、教えてもらったりして幼稚園で歌っている曲と一緒に歌うひとときを楽しみましょう。

安全

子どもは危なっかしいことや小さなケガなどを通して「安全に遊ぶこと」を身につけます。したいことを大人が先に止めてしまわず、子どもが自分で気づけるようにしましょう。でも本当に危険な時は止める必要があります。

希望生活の
つぼ！
3か条

その①「なぜ？」「どうして？」を大切に ～知的好奇心を育てよう～

いろいろなことに興味をもってたずねてきます。一緒に想像を膨らませたり考えたりしてみましょう。

その② けんかの機会を大切に ～大人が解決してしまわない～

気持ちが揺れる中で子どもは成長します。子ども自身が思いを巡らす姿を温かく受け止めましょう。

その③ 自信の土台をしっかりと ～待つほめて、やる気を引き出す～

もう自分でできるからといって、「早く自分でしなさい」と突き放されてしまうとやる気がしぼんでしまいます。できるだけ時間に余裕をもちましょう。

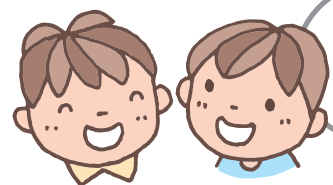
幼稚園 5歳児
こんな時期です

「育ち」の特徴

- 早寝早起き・着替え・食事・手洗い・排便などの生活習慣が確立してきます。
- 興味のあるものを調べたり、試行錯誤して考えたりするなど、探究心が育ってきます。
- 集団での遊びを楽しむようになり、友達関係が深まります。
- 思いや考えを自分なりの言葉で人に伝えたり、人の思いや考えを聞こうとするようになります。
- 活動範囲が広がります。体を十分に動かして遊ぶ中で、運動能力や筋力がたくましく発達するとともに、安全に行動する力が身に付いてきます。

幼稚園での「生活」や「遊び」の姿

- 身の回りの物を大切に、きちんと揃えたりたたんだりする姿が見られます。
- 体験したり、知識として得たりしたことを、遊びの中に取り入れようとします。
- 遊びの中で文字や数への興味を広げたり、自分なりにそれを生かした遊びを工夫したりします。
- 当番やグループ活動を通して自分の役割を果たすことで、自信をもちます。
- 友達と考えを出し合ったり、ルールをつくったりして、見通しをもって遊びを進めていきます。けんかも起こりますが、自分たちで解決しようとしています。
- 自分なりに目的をもって取り組もうとします。新しいことやできないことにも教師や友達の励まし、また認められることを通してどんどん挑戦していこうとします。
- 幼稚園生活の最後には、自分でできるようになったことや年長児となって関わったことなどから自分の成長を感じて、自信や自己肯定感を高め、小学校生活を待ちのぞむ気持ちをもつようになります。

ほっとタイム
5歳児コーナー

飼育ケースで飼っていたザリガニがいなくなっていることに気付いた子どもたち。「ザリガニは何を食べるんだっけ?」「ニンジン!」「そしたらここにニンジンを置いておいたら出てくるかも」「足跡は?」と早速ザリガニ探検隊になって搜索が始まりました。

ワンポイント
アドバイス

幼稚園

5歳児 家庭生活
こんな内容・方法で

▶よい生活習慣の基礎づくりを

- 食事ときにはテレビより会話を
- 近所の人にも挨拶を
- 基本的な生活習慣が身に付いているか、確かめて

持ち物の準備



幼稚園に行く前に!

弁当箱を包む、ハンカチ、ティッシュを用意する等、持ち物を自分で準備・点検する習慣を付けましょう。

片付け



整理整頓!

遊具の数を確かめたり、形を揃えたりなどして、次に使いやすいように片付ける習慣をつけましょう。



- 保護者同伴で友達と一緒に公園や広場などに行き、親も加わって鬼ごっこやドッジボールなどのいろいろな集団遊びを楽しみましょう。
- 身近な自然(虫・花・木の実等)に触れ、親子で季節を感じましょう!



- 文字が読めるからといっても、ストーリーの理解は十分ではありません。まだまだ大人に読んでもらうことが必要な時期です。
- 長編を少しずつ読んでもらう待ち遠しさやワクワク感も味わわせましょう。



- 「何てかいてあるの?」聞いてきたら丁寧に答えましょう。
- おやつを分ける役を頼んだり、外出時、興味をもった看板の文字と一緒に読んだりなどして、自然に関心が広がる工夫をしましょう。



- 理屈をつけたり、口答えをしたりすることは、成長過程の一つの姿でもあります。ただ、相手を傷つけるような言葉はその場で注意しましょう。
- 経験したことを文章化して言葉で伝えようとする時期です。大人が先取りしないで、楽しんでゆっくりと聞きましょう。



- 親子で管弦楽などの曲にふれるのも楽しいものです。新しい曲、昔ながらの曲、静かな曲、弾む曲など、様々な楽曲のいろいろな音色、リズム、曲想などに触れ合うことで心がいきいきと動き、耕されます。

安全

信号の見方や横断歩道の渡り方、路側帯の歩き方、家から幼稚園までの危険な場所などを登降園や買い物の行き帰りなどで知らせておくことが大切です。

家庭生活の
つぼ!
3か条

- その① やって良いこと、悪いことを自分で判断できるように ~道徳心の芽生えを育む~
望ましくない行動をした時には、はっきりと分かるように知らせることが大切です。子どもが混乱しないよう、大人の考え方は同じ方向に!
- その② 直接体験、感動体験で豊かな心を ~心や体を十分動かして~
親子で一緒に心や体を十分動かしましょう。好奇心・探究心や、生命を尊重し、慈しむ心を育てることが、学びへの意欲につながります。
- その③ 小学校生活への期待を膨らませて ~入学への喜びを「やろう」とする気持ちに~
「もうすぐ小学生だから」と親が神経質になることで子どもも入学に不安を抱いてしまいます。「給食おいしいよ」「友達いっぱいできるね」などと期待が膨らむような会話をしましょう。また、入学を心待ちにしながら、親子で基本的な生活習慣が身に付いているか見直してみましょう。

安心

様々な幼稚園・保育園(所)・認定こども園などから入学してくる1年生。園(所)や家庭などと同じような経験をしたり、先生や友達に親しみを感じたりして安心して、小学校生活を送るようになります。

登校時 自分の持ち物の置き場所がわかり、安心して自分で整理をします。



提出物の置き場所



授業前におもちゃや折り紙など幼稚園で使ったもので遊ぶなどして緊張がほぐれます。

授業は幼稚園などで経験したような活動が取り入れられ楽しい雰囲気が始まります。



成長

先生との信頼関係や友達との仲間意識ができ、安心できる居場所となった小学校で、自ら進んで考えたり、入学までに培った力を十分に自己発揮したりしながら、自信や意欲が徐々に高まり、根付いていきます。

活動内容に応じて、机だけではなく、フロアを活用するなど、就学前施設と同じような環境の中で自分の力を発揮していきます。



互いの良さを認めたり、刺激を受けたりしながら、周りの友達と一緒に学習を進めます。

小学校の校長先生から

【京都市架け橋会議における京都市小学校長会の意見より】

小学校入学までに子どもたちに育んでおいてほしいこと、経験しておいてほしいこと。

- 自分でやりたいこと(遊び)に夢中になって取り組む経験をたくさんしてほしい。
- 家庭や幼稚園などでの遊びの中で豊かな発想力や創造力を育んでほしい。
- 自分で「○○したい」と思ったことに取り組み、できた時の喜びやそれを周りの人に認めてもらった経験など、自己肯定感を高める経験をたくさん積んでほしい。
- 友達とどんどん関わり、もまれて、折り合いをつけていく経験をしておいてほしい。
- 困った時に、周りの人に尋ねられるようになってほしい。
- 入学してからきちんと学ぶのでひらがなや計算を習得していなくても大丈夫です。

家庭では!

楽しい小学校ではあるけれど、緊張や不安がある毎日。焦らず、お家で子どもの様子を見守ってみましょう!

- 今日一日、小学校でどんな活動をしたのかを尋ねるなど会話やスキンシップをしましょう。
- 今日の持ち物の整理(給食袋やプリントを渡すなど)や明日の準備など子どもがやろうとしていることを見守りながらできたことを認め、励ましの言葉を掛けたりしましょう。
- 小学校ではゆっくり、じっくり子どもたちの様子に合わせて授業が進められます。「勉強ができないといけない」というプレッシャーを感じなくて大丈夫です。
- 子どもの様子を見て、心配になったことやわからないことなども気軽に電話や連絡帳で担任の先生に尋ねたり、相談したりしましょう。

自立

自分で考え、判断し、自己発揮を重ねながら自分を確立していきます。それが6年間の学びの基礎となっていきます。

子ども主体の学習活動を重ねることで自信や意欲が高まります。



京都市立幼稚園の地域の子育て支援センターとしての機能・役割

▶ 預かり保育の充実

家庭とともに子育てを推進するために、希望者を対象に京都市立幼稚園では全園で預かり保育を実施しています。働き方やご家庭の事情に合わせてご利用ください。



早朝預かり保育(毎日)

- ① 8:00～8:50 100円
- ② 7:30～8:50 100円

※②は中京もえぎ幼稚園のみで実施



午前保育日以外(月・火・木・金)

- 14:00～16:00 200円
- 14:00～18:00 400円

午前保育日(水曜日等)

- 12:00～14:00 200円
- 12:00～16:00 400円
- 12:00～18:00 600円

(夏休みや冬休み等)長期休業期間中等の場合

- 8:00～8:50 100円
- 8:50～12:00 300円
- 8:50～14:00 500円
- 8:50～16:00 700円
- 8:50～18:00 900円

※在園児で新2号認定を受けていれば、ひと月当たり、450円×利用日数を上限として、費用はかかりません。
※未就園児クラス(親子クラス除く)も御利用いただけるようになりました。詳しくは各園にお問い合わせください。

▶ 未就園児教育相談

地域の子育て支援実施園として、園庭開放や未就園児の子育て相談を実施しています。また、未就園児クラスとして、**親子で参加するクラス、子どもだけで参加するクラス**を実施しています。

各京都市立幼稚園のホームページに掲載していますので、ぜひ一度、お近くの京都市立幼稚園へ遊びに来てください。



- 1 上賀茂幼稚園 TEL.075-781-2336
- 2 京極幼稚園 TEL.075-231-6696
- 3 みつば幼稚園 TEL.075-441-3752
- 4 待賢幼稚園 TEL.075-841-3200
- 5 乾隆幼稚園 TEL.075-441-0406
- 6 翔鸞幼稚園 TEL.075-461-3642
- 7 中京もえぎ幼稚園 TEL.075-254-8441
- 8 楊梅幼稚園 TEL.075-351-0937
- 9 明德幼稚園 TEL.075-781-4660
- 10 西院幼稚園 TEL.075-313-1392
- 11 伏見板橋幼稚園 TEL.075-611-2684
- 12 伏見南浜幼稚園 TEL.075-601-2731
- 13 伏見住吉幼稚園 TEL.075-601-3652
- 14 深草幼稚園 TEL.075-641-1466
- 15 竹田幼稚園 TEL.075-641-3318

詳しくは各園のホームページをご覧ください。➡



迷ったとき、困ったとき、専門の機関に相談することも一つです

① 京都市児童福祉センター

主に18歳未満の子どもに関するさまざまな相談。★閉所日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始

ア 京都市児童相談所

子育ての不安、不登校、非行、子どもを家庭で育てられない、里親になりたいなどの相談。

(南区、伏見区以外の方) ★電話 950-0748 FAX 950-1618 ★受付時間 午前8時30分～午後5時

(南区・伏見区にお住まいの方:第二児童相談所がご相談に応じます)

★電話 612-2727 FAX 612-2888 ★受付時間 午前8時30分～午後5時

子どもの虐待の相談や通告 ★子ども虐待SOS専用電話 950-1569 ★受付時間 24時間 365日対応

イ 京都市発達相談所発達相談課

子どもの発達の遅れ、きこえやことばの不安などの発達相談。

(南区、伏見区以外の方) ★電話 950-1232 FAX 950-1618 ★受付時間 午前8時30分～午後5時

(南区・伏見区にお住まいの方:第二児童福祉センターがご相談に応じます)

★電話 612-2700 FAX 612-2888 ★受付時間 午前8時30分～午後5時

親子のための相談LINE / 月～金 午前10時～午後8時(祝日・年末年始除く)

子育てや親子間の悩みごとなどのご相談を受け付けています。

※LINEアプリを取得後、二次元コードを読み取り、「友だち追加」を選択してください。➡



② 京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

★休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月28日～1月4日)

●子育て相談(予約制) 乳幼児の子育てについて対面でご相談に応じます。

対面相談 公認心理師等の専門家がご相談に応じます。

★予約電話 254-8993(午前9時～午後5時 休館日除く)

健康相談 専門医や言語聴覚士がご相談に応じます。

★Web予約 こどもみらい館WEBサイトをご確認ください。➡



③ 京都市子ども保健医療相談・事故防止センター 京(みやこ)あんしんこども館

子どもの成長や病気・事故など子育てに関する様々な疑問、不安、悩みについての相談。

●電話相談 時間内はいつでもその場で小児科医、保健師、看護師がご相談に対応します。

●面接相談 (予約制) 発達・こころ・行動の相談には児童精神を専門とする小児科医が、
整形外科の相談には小児整形外科専門医がご相談を直接お伺いします。

相談専用電話 ☎075-231-8005

相談時間 休日も含めて火曜～日曜 午前10時～午後6時、木曜 正午～午後8時

休館日 月曜日(年末年始を除く、月曜が休日の場合は翌火曜日が休館)

④ 区役所・支所の保健福祉センター

子育てや健康についての相談。必要に応じ保健師による家庭訪問。

★電話 各区役所・支所の保健福祉センター ★時間 午前9時～午後5時

★休所日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始

他にも専門機関がたくさんあります。幼稚園や保健福祉センター等から、適切な機関へつなげてもらうこともよいでしょう。相談機関を訪れることは特別なことではありません。子育てが楽しくなるように、気軽にご相談してみたいと思います。

家庭教育と遊びを中心とした幼児教育が
生涯にわたる「学び」の基礎を作ります



令和6年3月 初版発行

発行 京都市教育委員会指導部 学校指導課
京都市中京区烏丸通三条下ル饅頭屋町595-3
大同生命京都ビル7階 (TEL: 075-222-3806)